

## 論文の内容についてのご説明

1. Ayako Ide-Okochi, Yoshihiko Yamazaki, Etsuko Tadaka, Kazumi Fujimura and Toshie Kusunaga: *Illness experience of adults with cervical spinal cord injury in Japan: a qualitative investigation. BMC Public Health* 2013, 13:69.

BMC Public Health という雑誌は、公衆衛生に携わる行政機関や教育機関の研究者や実践家が多く、投稿している雑誌です。現在、海外では主流になりつつある、インターネット上で誰もが閲覧可能な、オープンアクセスジャーナルという形態を取っています。以下の URL で、Full Text(全文)を無料でダウンロードすることができます。ご興味がありましたら、アクセスされてみてください。

<http://www.biomedcentral.com/content/pdf/1471-2458-13-69.pdf>

この雑誌に投稿させていただいたのは、わが国の頸髄損傷をお持ちの皆さんの現状を、海外に発信する必要があると考えたからです。皆様のお話して下さったことに、海外の研究者からも興味を持っていただき、2013年1月、出版となりました。

2. 井出(大河内)彩子、藤村一美: *頸髄損傷者が経験する社会との関わりにおいてもたらされる苦しみと共生を目指す過程に関する検討. 日本地域看護学会誌* 2013, 第15巻第3号.

日本地域看護学会という、私のような研究職以外にも、訪問看護師の方や、保健師の方も多く参加されている学会の学会誌での発表が決定しております。障がいや重度ということに関係なく、皆様が普通に街に出て、映画や食事を楽しみたい、と考えておられることを、より多くの人間に知っていただきたいと考えました。

3. 井出(大河内)彩子、山崎喜比古、藤村一美、楠永敏恵: *外傷性在宅頸髄損傷者の個人誌の混乱にみる困難の特徴と概念構造の検討. 民族衛生* 2013, 第79巻第3号.

日本医学会の傘下にあります、日本民族衛生学会の学会誌での発表が決定しております。皆様のご苦勞なされてきたことについて、皆様の人生との兼ね合いから、長期的な視点で紹介させていただきました。

これらの論文のほかにも、日本公衆衛生学会総会、日本看護科学学会学術集会などの場で、皆様にご協力くださった、インタビュー調査の結果を発表させていただきました。以上、本来でしたら、より詳細にご報告させて頂かないといけないところ、簡略なご報告で失礼とは存じますが、インタビュー調査にご協力いただき、改めて御礼申し上げます。

井出彩子